

その後1980年代には、さらなるスポーツ性能を求めるライダーに向け、それまでのCBに対し、よりレーシングマシンの諸元をダイレクトに反映した“CBR”シリーズが生まれました。中でも1990年のCBR400RRでは開発テーマを“高次元ヒューマンフィッティング”と定め、ライダーに向けて“高い動力性能と運動性能の調和を図った完成車パッケージ”をもって高性能とするCBRの思想を明確に打ち出しました。この考え方は1992年に登場するCBR900RRの“Total Control”へと継承され、以来一貫して追求されています。

またCBRは、2004年よりトップエンドモデルの排気量を1000ccへと拡大。ここから直4のCBR1000RRでプロダクションレースを戦う体制が確立し、CBRはレースでの活躍をさらに拡げました。

そして現在のHondaにおいてCBRは、“ライダーとマシンの親和性を高める”ことに挑み続けてきた開発者たちのスピリットをも体現する存在となっています。“挑戦”。CBRは、それに関わる者すべてに、常にその物語を先に進めることを求め続けます。さらに今日のCBR1000RRに至るHondaの直4マシンは、その50年におよぶ歴史の中で、プロダクションレースに関わる人達との信頼構築にも大きな役割を果たしています。それは“挑戦するプロセスとその感動を分かち合う”という、何物にも替えがたい喜びを私たちにもたらす存在でもあります。

■1990年 CBR400RR



■1992年 CBR900RR



■2004年 CBR1000RR

